

和歌山県初記録のアゴアマダイ属魚類 2 種

大西 遼¹・谷口勝政²

Author & Article Info

¹ 串本海中公園センター (東牟婁郡串本町)
onishi@kushimoto.co.jp (corresponding author)
² マリンステージ串本 (東牟婁郡串本町)

Received 15 March 2026
Revised 23 March 2026
Accepted 23 March 2026
Published 24 March 2026
DOI 10.34583/ichthy.65.0_23

Ryo Onishi and Katsumasa Taniguchi. 2026. First records of *Opistognathus abei* and *O. ctenion* (Opistognathidae) from Wakayama Prefecture, Japan. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 65: 23–28.

Abstract

Two opistognathid species, *Opistognathus abei* Fujiwara and Ikeda, 2024 [single specimen: 35.3 mm standard length (SL)] and *Opistognathus ctenion* Fujiwara et al., 2023 (two specimens: 51.3–53.7 mm SL), are newly recorded from Wakayama Prefecture, Japan. The former species has previously been recorded only from Shimane (Oki Islands) and Mie prefectures, Japan. The latter species has previously been recorded from Mie Prefecture, the Osumi Islands (Mage-shima island), and Kerama Islands (Nagannu Island).

アゴアマダイ科アゴアマダイ属魚類 (Opistognathidae: *Opistognathus*) は、世界で 114 有効種が認められており (Fricke et al., 2026)、日本国内からは 16 有効種が記録されている (Fujiwara et al., 2023; 古橋ほか, 2023; Smith-Vaniz, 2023; Fujiwara and Ikeda, 2024)。本属魚類は砂底に巣穴を掘って生活することから、ダイビングによる観察や水中写真の撮影例は多いものの、採集が困難で標本が得られる機会は少ない (Smith-Vaniz, 2023; 宿女, 2025; 和田ほか, 2025)。そのため、各種の生態や分布については未だ不明な点が多い (林・大栗, 2007; Smith-Vaniz, 2023)。

2025 年 5 月 7 日と 15 日に和歌山県串本町においてアゴアマダイ属魚類の採集を目的とした潜水調査を実施したところ、ホソミアゴアマダイ *Opistognathus abei* Fujiwara and Ikeda, 2024 とシラタマアゴアマダイ *O. ctenion* Fujiwara et al., 2023 が採集された。両種はいずれも日本からのみ分布

が確認されており、前者は島根県隠岐諸島と三重県、後者は三重県、鹿児島県大隅諸島、および沖縄県慶良間諸島からそれぞれ標本に基づいて記録されている (Fujiwara et al., 2023; Fujiwara and Ikeda, 2024; 笹木, 2025; 宿女, 2025)。したがって、本研究で得られた標本は両種の和歌山県からの初記録となるため、ここに報告する。

材料と方法

計数・計測方法は Smith-Vaniz (2023) にしたがった。計測はデジタルノギスを用いて 0.01 mm の単位で行い、小数第 2 位は四捨五入した。標準体長 (standard length) は体長または SL、頭長 (head length) は HL と表記した。脊椎骨の計数は軟 X 線写真を用いた。鱗の計数および感覚管と感覚孔の観察はアニリンブルーで染色しておこなった。採集された標本は 10% ホルマリン溶液で固定し、70% エタノール溶液に置換して保存した。生時と生鮮時の体色の記載は固定前に撮影されたカラー写真 (Figs. 1, 2) に基づいて記載した。本報告に用いた標本は和歌山県立自然博物館 (WMNH-PIS) に保管されている。

Opistognathus abei* Fujiwara and Ikeda, 2024*ホソミアゴアマダイ**

(Fig. 1; Table 1)

標本 WMNH-PIS 14547, 体長 35.3 mm, 和歌山県東牟婁郡串本町有田, 水深 15 m, 手網, 2025 年 5 月 15 日 (2025 年 6 月 7 日まで飼育), 谷口勝政・大西 遼。

記載 計数形質と体各部の体長と頭長に対する割合を Table 1 に示した。体は長く、体高は胸鰭基底付近で最大となる。肛門は臀鰭起部の直前に位置する。頭部は円筒形で丸みを帯び、やや側扁する。軀幹部から尾部にかけては強く側扁する。吻は短く、吻端から眼窩上端までの輪郭は著しく盛り上がり、その後方から背鰭起部にかけて緩やかに上昇する。前鼻孔は短い管状で吻端に位置し、後鼻孔は楕円形で眼の前縁に位置する。眼はやや大きく楕円形

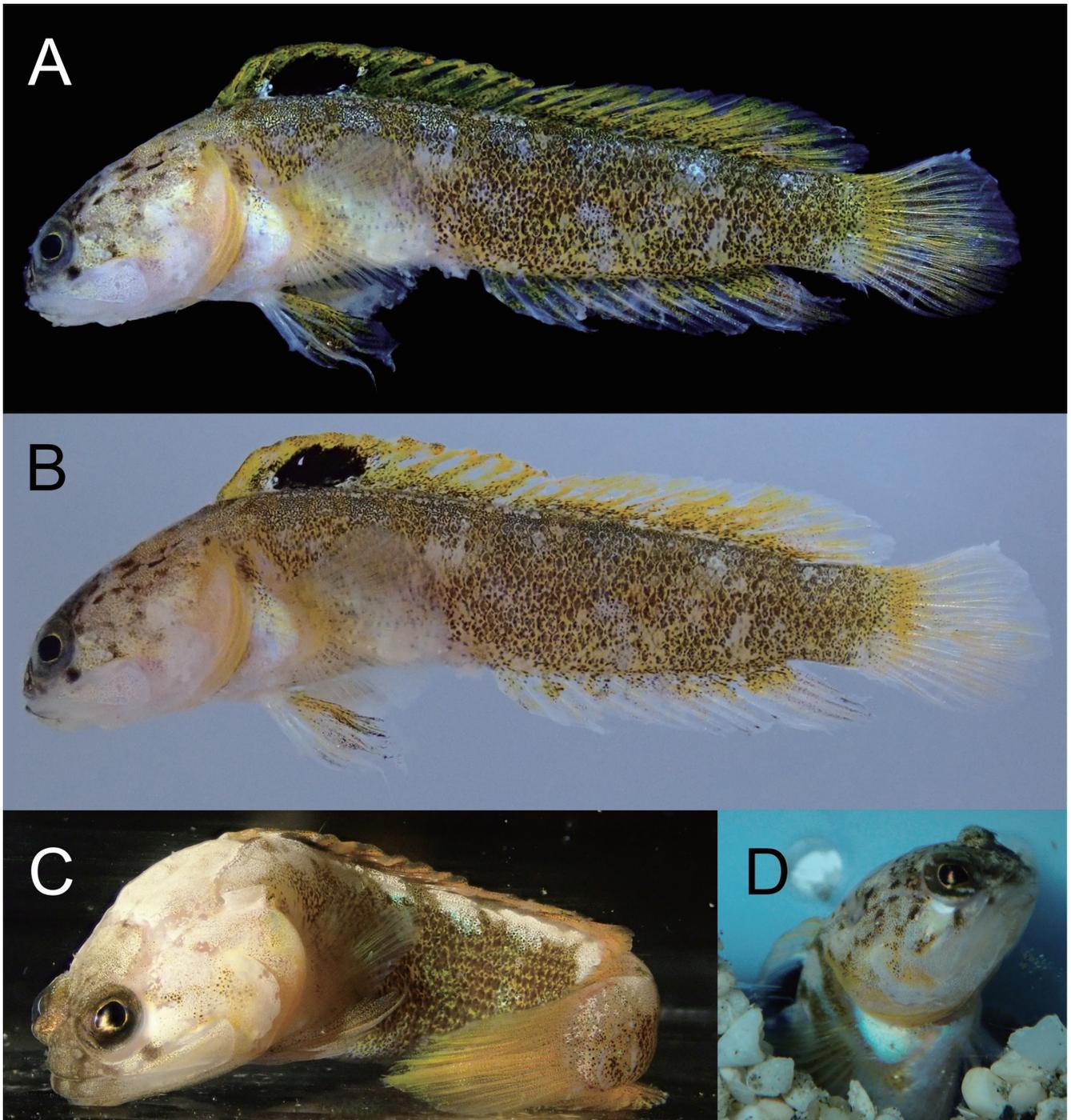


Fig.1. Fresh specimen (A, B) and live individuals (C, D) of *Opistognathus abei* (WMNH-PIS 14547, 35.3 mm SL) from Wakayama Prefecture, Japan.

で、頭部前方の背外側に位置する。両眼間隔は吻長よりも短い。口は亜端位で大きく、上顎後端は眼窩後端をはるかに越える。上顎先端は下顎先端よりもわずかに前方に突出する。主上顎骨後部は硬い。鰓蓋の後縁は円滑。頭部感覚孔は比較的発達が弱く、小さな感覚孔が疎らに見られる。両顎には小さな円錐歯が並び、上顎と下顎の前方部で2-4列の歯帯を形成し、外縁の1列が後方まで続く。鋤骨歯はない。舌はやや細く、前端は丸みを帯びる。側線は1本で、背鰭第2軟条基部直下まで達する。側線の上下には小さな感覚孔が1列に並ぶ。体側鱗は円鱗で、頭部、頬部、胸部、胸鰭基底、腋部、側線の上下、および背鰭第6棘基部前方

の垂直方向は無鱗。背鰭は1基で基底は長く、背鰭起部は鰓孔上端の直上に位置する。臀鰭起部は背鰭第1軟条基部の直下に位置する。臀鰭基底後端は背鰭基底後端と同位。背鰭棘と臀鰭棘は二又しない。背鰭と臀鰭の軟条は全て先端が分岐する。胸鰭は大きく、円形で丸みを帯びる。胸鰭の後縁は肛門の直前に達する。腹鰭は第2軟条が最長で、その後端は背鰭第9棘直下付近に位置する。尾鰭は円形で、後方に向かい丸みを帯びる。

色彩 生時と生鮮時の色彩 (Fig. 1) — 体の地色は薄黄色味を帯びた白色である。体側は黄色味を帯び、茶褐色斑と黒色素胞が密に分布する。軀幹部から尾部にかけての背

側に不定形の白色斑が水平方向に 8 個並び、その下方にも不明瞭な白色斑が並ぶ。頭部は薄黄色味を帯びた白色で、上顎より下方は白色を呈する。頭部には茶褐色の不定形の斑紋と黒色素胞が散在し、吻端と眼上付近の頭部背面は茶褐色を呈する。鰓蓋は黄色。虹彩は褐色で、瞳孔は金色で縁取られる。背鰭は半透明の黄色で、黒色素胞が散在する。背鰭第 3 棘から 6 棘にかけて眼状黒色斑があり、両端の下方は白色を呈する。臀鰭、腹鰭、および尾鰭は半透明で所々黄色味がかり、黒色素胞が散在する。胸鰭は半透明で、胸鰭基部には楕円形の大きな白色斑がある。

分布 本種は日本からのみ記録されており、国内では島根県隠岐諸島（隠岐島）と三重県から記録されている (Fujiwara and Ikeda, 2024; 笹木, 2025)。本研究により新たに和歌山県串本町から記録された。

備考 和歌山県の標本は背鰭条が XI, 13 であること、臀鰭条が II, 13 であること、尾骨数が 16 であること、縦列鱗数が 42 であること、鰓耙数が $8 + 17 = 25$ であること、側線が背鰭第 2 軟条基部直下で終結すること、鋤骨歯がないこと、背鰭第 3 棘から 7 棘の間に眼状黒色斑があること、体側に 2 列の白色斑が並ぶこと、胸鰭基部に楕円形の大き

な白色斑があることなどが Fujiwara and Ikeda (2024) の示したホソミアゴアマダイ *O. abei* の特徴に一致したため本種に同定された。ただし、本標本は Fujiwara and Ikeda (2024) の報告した形質と比較して、背鰭、臀鰭、および腹鰭に黒色素胞が散在すること [Fujiwara and Ikeda (2024) では散在しない]、背鰭第 3 棘から 7 棘の間に眼状黒色斑があること（背鰭第 2 棘から 7 棘の間）、尾鰭が半透明で黄色味を呈すること（尾鰭は透明から薄い茶色）が一致しなかった。また、これらの形質は本種に類似するムシクイアゴアマダイ *Opistognathus nigripinnis* Smith-Vaniz, 2023 とよく一致していた。しかし、本標本は体側に白いジクザク状の模様がないこと（ムシクイアゴアマダイはある）、背鰭に明瞭な眼状黒色斑があること（背鰭に不明瞭な黒色斑がある）が一致せず (Smith-Vaniz, 2023; Fujiwara and Ikeda, 2024; 笹木, 2025; 本研究)、笹木 (2025) により報告された三重県産の本種は背鰭に黒色素胞が散在し、尾鰭が透明な黄色であることや、その他の形態的特徴が Fujiwara and Ikeda (2024) と一致していたことから、本研究ではこれらの差異を種内変異であると判断した。

本種の分布は「分布」の項に示したとおりであり、今

Table 1. Counts and measurements of *Opistognathus abei* and *O. ctenion* from Wakayama Prefecture, Japan.

	<i>O. abei</i>		<i>O. ctenion</i>	
	WMNH-PIS	WMNH-PIS	WMNH-PIS	WMNH-PIS
	14547	14545	14546	
Standard length (SL; mm)	35.3	53.7	51.3	
Counts				
Dorsal-fin rays	XI, 13	X, 18	XI, 18	
Anal-fin rays	II, 13	II, 17	II, 17	
Pectoral-fin rays	20 / 20	19 / 19	19 / 19	
Pelvic-fin rays	I, 5	I, 5	I, 5	
Procurrent caudal-fin rays	3 + 3	5 + 5	5 + 5	
Branched caudal-fin rays	12	12	12	
Segmented caudal-fin rays	8 + 8 = 16	8 + 8 = 16	8 + 8 = 16	
Longitudinal scale rows	42	48	50	
Gill rakers	8 + 17 / 8 + 17 = 25	6 + 14 / 7 + 14 = 20 / 21	6 + 14 / 7 + 14 = 20 / 21	
Vertebrae	10 + 18 = 28	10 + 22 = 32	10 + 22 = 32	
Measurements (% SL)				
Pre-dorsal-fin length	29.4	30.1	31.3	
Pre-anal-fin length	52.0	54.3	54.7	
Dorsal-fin base length	72.5	70.2	70.3	
Anal-fin base length	36.8	36.1	39.5	
Pelvic-fin length	20.0	20.4	20.8	
Caudal-fin length	23.2	18.2	20.4	
Body depth	20.7	20.2	21.4	
Caudal-peduncle depth	10.5	8.9	8.4	
Head length	31.7	29.2	30.4	
Postorbital length	21.8	20.8	19.7	
Upper-jaw length	16.7	16.1	16.9	
Postorbital-jaw length	5.3	5.0	5.0	
Orbit diameter	7.4	9.3	8.2	
Measurements (% HL)				
Postorbital length	68.8	71.3	65.3	
Upper-jaw length	52.7	55	55.7	
Postorbital-jaw length	16.9	17.3	16.7	
Orbit diameter	23.2	31.8	26.9	

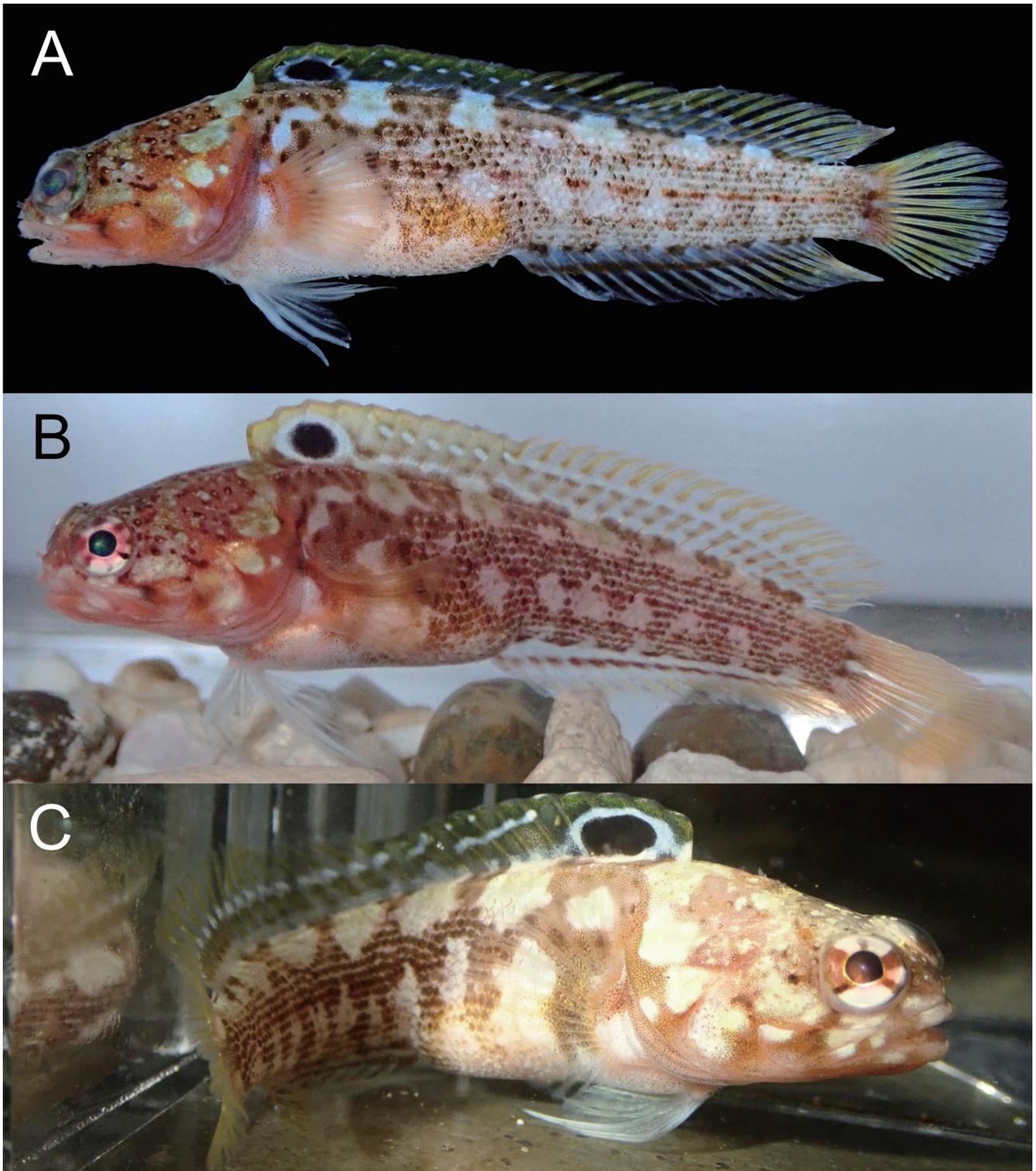


Fig. 2. Fresh specimen (A) and live individuals (B, C) of *Opistognathus ctenion* (A, B: WMNH-PIS 14545, 53.7 mm SL, C: WMNH-PIS 14546, 51.3 mm SL) from Wakayama Prefecture, Japan.

回得られた標本は和歌山県からの初めての記録となる。本種は島根県隠岐諸島では潮流の影響を受ける水深 25–26 m の砂礫底の巣穴に生息することが知られている (Fujiwara and Ikeda, 2024)。和歌山県産の個体はサンゴ群集がみられる入り組んだ岩礁の水深 15 m の砂礫底に掘られた巣穴から採集された (Fig. 3A)。

Opistognathus ctenion Fujiwara, Motomura and Shinohara, 2023

シラタマアゴアマダイ
(Fig. 2; Table 1)

標本 2 標本：WMNH-PIS 14545, 体長 53.7 mm (2025 年 5 月 12 日まで飼育), WMNH-PIS 14546, 体長 51.3 mm (2025 年 5 月 15 日まで飼育), 和歌山県東牟婁郡串本町潮

岬, 水深 23 m, 手網, 2025 年 5 月 7 日, 大西 遼・谷口勝政.

記載 計数形質と体各部の体長と頭長に対する割合を Table 1 に示した. 体は長く, 躯幹部から尾部にかけては強く側扁する. 体高は胸鰭基底付近で最大となる. 肛門は臀鰭起部の直前に位置する. 頭部は円筒形で, 丸みを帯びる. 吻は短く, 吻端から眼窩上端までの輪郭は著しく盛り上がり, その後方から背鰭起部にかけて緩やかに上昇する. 前鼻孔は短い管状で吻端に位置し, 後鼻孔は楕円形で眼の前縁に位置する. 眼は大きく楕円形で, 頭部前方の背外側に位置する. 口は垂端位で大きく, 上顎後端は眼窩後端をはるかに越える. 上顎先端は下顎先端よりも前方に突出する. 主上顎骨後部は硬い. 鰓蓋の後縁は円滑. 頭部感覚孔と感覚管は比較的良好に発達するが, 唇部と上顎に感覚孔をもたない. 両顎には小さな円錐歯が並び, 上顎と下顎の前方部で 2-4 列の歯帯を形成し, 最外縁の 1 列が後方まで続く. 鋤骨には円錐状の歯が 2 本ある. 舌は大きく, 前端は丸みを帯びる. 側線は 1 本で, 背鰭第 6-7 軟条基部直下まで達する. 側線の上下には小さな感覚孔が 1 列に並ぶ. 体側鱗は円鱗で, 頭部, 頬部, 胸部, 胸鰭基底, 腋部, 側線の上下, および背鰭第 6-7 棘基部前方の垂直方向は無鱗. 背鰭は 1 基で基底は長く, 背鰭起部は鰓孔上端付近の直上に位置する. 臀鰭起部は背鰭第 2 軟条基部の直下に位置する. 臀鰭基底後端は背鰭基底後端と同位. 背鰭棘と臀鰭棘は二叉しない. 背鰭と臀鰭の軟条は全て先端が分岐する. 胸鰭は円形で丸みを帯びる. 胸鰭基部は背鰭第 2 棘基部の直下, 胸鰭後縁は背鰭第 7 棘基部の直下に位置する. 腹鰭は第 2 軟条が最長で, その後端は背鰭第 7 棘直下付近に位置する. 尾鰭は円形で, 後方に向かい丸みを帯びる.

色彩 生時と生鮮時の色彩 (Fig. 2) — 体の地色は赤褐色で, 所々橙色を呈する. 頭部と体側には不定形の茶褐色斑が散在する. 体側に 2-3 列の不定形な薄黄色味を帯びた白色斑が水平方向に 7-10 個並ぶ. 頭部には大小様々な不定形の薄黄色味を帯びた白色斑が散在する. 鰓蓋は薄い赤色で, 黒色素胞が散在する. 虹彩は白色で, 瞳孔から 4-6 本の淡い赤色線が放射状に伸びる. 背鰭は半透明の薄い黄色で, 背鰭基底部と中央付近に赤褐色斑の不明瞭な縦帯が走る. 背鰭第 6 棘付近から背鰭最終軟条にかけて 2 列の不明瞭な白色縦帯 (一部点列状となる) が走る. 背鰭第 2 棘から 5 棘にかけて白く縁取られた眼状黒色斑がある. 臀鰭は半透明で, やや薄い黄色味を呈する. 臀鰭基底部と中央付近に赤褐色斑の縦帯が走り, 中央の赤褐色斑の上下には白色縦帯が走る. 胸鰭は半透明の薄い橙色で, 胸鰭基部には楕円形の白色斑がある. 腹鰭は白色である. 尾鰭は半透明で, やや橙色味がかかった薄い黄色.

分布 本種は日本からのみ記録されており, 国内では三重県, 鹿児島県大隅諸島 (馬毛島), 沖縄県慶良間諸島 (ナガンヌ島) から記録されていた (Fujiwara et al., 2023; 宿女,

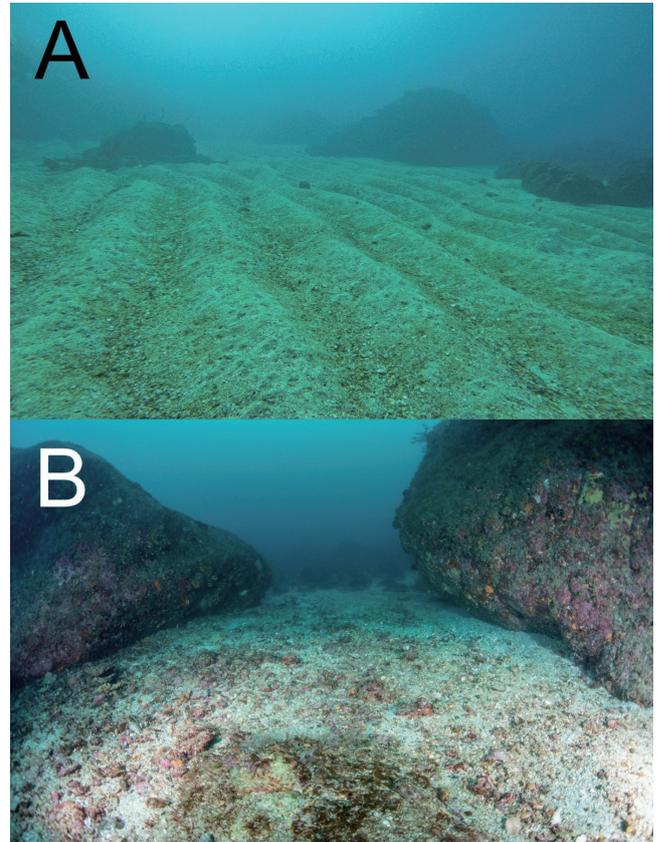


Fig. 3. Habitats of *Opistognathus abei* (A, depth 15 m) and *O. ctenion* (B, depth 23 m), in Kushimoto, Wakayama Prefecture, Japan.

2025). 本研究により新たに和歌山県串本町から記録された.

備考 和歌山県産の標本は背鰭条が XI, 18 であること (WMNH-PIS 14545 は X, 18), 臀鰭条が II, 17 であること, 尾骨数が 16 であること, 縦列鱗数が 48-50 であること, 鰓耙数が 6 または $7 + 14 = 20$ または 21 であること, 2 本の鋤骨歯があること, 側線が背鰭第 6 軟条基部直下で終結すること (WMNH-PIS 14545 は 7), 背鰭第 2 棘から 5 棘の間に眼状黒色斑があること, 体側に縦列に並ぶ白色斑があること, 尾鰭はやや橙色味がかかった薄い黄色であることなどが Fujiwara et al. (2023) の示したシラタマアゴアマダイ *O. ctenion* の特徴に一致したため本種に同定された. ただし, WMNH-PIS 14545 は Fujiwara et al. (2023) の報告した形質と比較して, 背鰭棘条数が 10 であること [Fujiwara et al. (2023) では 11], 側線が背鰭第 7 軟条基部直下で終結すること (4-6) が一致しなかった. しかし, 既知の計数値が 3 標本のみに限られることや, その他の形態的特徴が Fujiwara et al. (2023) と一致していたことから, 本研究ではこの差異を種内変異であると判断した.

本種の分布は「分布」の項に示したとおりであり, 今回得られた標本は和歌山県からの初めての記録となる. 本種は大隅諸島および沖縄諸島では水深 35-57 m の砂礫底から採集されている (Fujiwara et al., 2023). 和歌山県産の

個体は入り組んだ岩礁の水深 23 m の砂礫底に掘られた巣穴から採集された (Fig. 3B). なお, 和歌山県産の 2 標本は腹部が大きく膨満し, 卵巣中に卵の形成が認められたことから性成熟した雌であると判断された.

謝 辞

マリンステージ串本の皆さまと串本海中公園センターの佐久間夢実氏, 松永康大氏には採集調査にご協力いただいた. 京都大学総合博物館の藤原恭司氏には同定にご協力いただいた. 和歌山県立自然博物館の平嶋健太郎氏には軟 X 線写真の撮影と標本登録を行っていただいた. 神奈川県立生命の星・地球博物館の和田英敏氏, 匿名の査読者, および Ichthy 担当編集委員の吉田朋弘氏には原稿に対して有益な助言をいただいた. 以上の方々に厚く御礼申し上げます.

引用文献

- Fricke, R., W. N. Eschmeyer and R. Van der Laan. 2026. Eschmeyer's catalog of fishes: genera, species, references. [URL](https://www.fishbase.org/ichthyology/2026) (29 Jan. 2026)
- Fujiwara, K. and Y. Ikeda. 2024. Description of a new species of *Opistognathus* (Perciformes: Opistognathidae) from the southern Japan Sea. *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-024-00951-7 (Feb. 2024), 72: 1–8 (Jan. 2025).
- Fujiwara, K., H. Motomura and G. Shinohara. 2023. *Opistognathus ctenion* (Perciformes, Opistognathidae): a new jawfish from southern Japan. *ZooKeys*, 1179: 353–364.
- 古橋龍星・藤原恭司・本村浩之. 2023. 鹿児島湾から得られた九州沿岸初記録のアゴアマダイ科魚 *Opistognathus flavidus* バナナアゴアマダイ (新称). *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 31: 19–23.
- 林 公義・大栗智史. 2007. 日本産アゴアマダイ属 (アゴアマダイ科) 魚類の分類学的研究. 横須賀市博物館研究報告 (自然科学), 54: 27–57.
- 笹木大地. 2025. ホソミアゴアマダイ, p. 263. 木村清志・笹木大地 (編) 美し国の魚たち 三重県の魚類図鑑. 木村清志, 伊勢.
- Smith-Vaniz, W. F. 2023. Review of Indo-West Pacific jawfishes (*Opistognathus*: Opistognathidae), with descriptions of 18 new species. *Zootaxa*, 5252: 1–180.
- 和田英敏・篠田将太郎・谷 新菜・松尾 怜・加藤 晃・棟方航平・本村浩之・工藤孝浩・瀬能 宏. 2025. アゴアマダイ科オオメアゴアマダイの北限更新を含む追加記録および形態学的記載. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 57: 28–33.
- 宿女太志. 2025. シラタマアゴアマダイ, p. 263. 木村清志・笹木大地 (編) 美し国の魚たち 三重県の魚類図鑑. 木村清志, 伊勢.